

1. 全国学校保健研究大会

日時：平成18年11月9日(木)・10日(金)

場所：松江市 島根県民会館

記念講演 「子どもが危ない！」～”メディア漬け”が子どもを蝕む～

NPO「子どもとメディア」代表理事 清川 輝基氏

子どもの発達を考える上で、激増しているメディアの長時間接触の問題がある。テレビ、ビデオ、パソコン、ゲームなどメディアへの接触時間の総量が激増し、それに引き替え、外遊び、仲間体験、自然体験が失われてきたなど子どもの生活の変化が、からだの発達を遅らせ、コミュニケーションの力、人との関係を作る力を弱めてきたのではないかと警鐘を鳴らされていました。これらへの対応策では、まず「メディア漬け」から脱出するための方法として、「ノーテレビデー」を地域と一緒に実施していきましょう。と提言されました。

課題別研究協議会(第8課題快適な学校環境づくりをまですす学校環境衛生活動の進め方)
指導助言(コーディネーター)

快適な学校環境づくりをめですす学校環境衛生活動の進め方

愛知県教育委員会健康学習課 主査 大鷲雄二先生

児童生徒保健委員会の活動を活性化させ、児童生徒が主体的となって環境衛生検査を行う取組により、環境衛生の重要性についての意識を高める必要があります。役立つホームページとして環境教育・環境学習データベース <http://www.eeel.jp/>を紹介されました。学校内外の環境教育や地域・事業者における環境学習を支援することを目的に、情報が提供されています。

研究発表

「環境」をキーワードにした教育実践

徳島県立城西高等学校神山分校 保健主事 坂野 真吾先生

徳島県独自の「学校版環境ISO」の認定を取得されています。学校版環境ISOの目的は学校の児童・生徒、教職員自らが地球環境を守るための「Plan Do Check Action」サイクルを繰り返すことにより、地球にやさしい学校づくりを目指すことにあり、児童生徒が主体的に取り組んでおり、いいシステムだなと思いました。他県にも同様なものがあります。山口県においても、環境政策課などと共同してシステムを作っていたらと思いました。

快適な学習環境づくりをまですす学校環境衛生活動の進め方

～よりよい環境の維持・改善を目指して～

岐阜県岐阜市立鷺山小学校 保健主事 河田 彰子先生

児童による教室環境の日常点検、保健委員会による学校環境衛生活動など、参考になる事例を発表されました。特にトイレトペーパーの芯をリサイクルした「窓開け棒」は会場からもぜひ取り入れてみたいという意見が多く出ていました。

「窓開け棒」：欄間の両端を11cm開けておくため、ストーブを使用する時期がくると、保健委員会がトイレトペーパーの芯をリサイクルし、各教室の欄間に設置する。

豊かな心と主体的に取り組む力を育む教育 ～学校環境衛生活動を通して～

島根県雲南市立掛合中学校 養護教諭 三嶋 恭子先生
学校薬剤師 長岡 栄 先生

生徒が毎週教室の環境をチェックしています。また、保健委員会が、教室の照度および照明環境、黒板検査を実施し、学校薬剤師と協力し、白く変色していた理科室の黒板を、市教委に修理依頼した事例を発表されました。また、毎年さわやかタウン大作戦で、国道54号線沿いの清掃活動を行い、平成6年に建設大臣表彰、平成17年に日本道路協会から表彰を受けています。

研究発表の3題はいずれも、児童生徒が環境問題について考え実践をしています。環境衛生活動は、児童生徒が身近な環境問題として関心を持ち、環境を健康的に保つことの重要性を認識させることにあるとおもいます。児童生徒が、保健委員会などで活動していくのに参考になりました。

講義 快適な学校環境づくりの視点

金沢大学大学院 教授 城戸 照彦先生

学校環境衛生の進め方として、学校環境の把握に当たっては、複数の目で確認することが重要で、学校医、学校薬剤師、養護教諭はもちろん、校長、一般教員、さらに主人公である児童生徒や父兄の参加が大切です。また、担当者が、移動しても良質な活動を継続できる体制作りが求められています。養護教諭が移動すると、がらっと環境衛生への取組が変わる学校があります。そうではないシステムを作っていかななくてはと思いました。

2. 全国学校薬剤師大会

日時：平成18年11月10日（金）14時～

場所：サンラポーむらくも

特別講演「薬育のための薬物動態」

東京大学教授・薬学博士 澤田 康文先生

服薬コンプライアンスが落ちていたのは夫婦仲に原因があったケースなど話され、大変楽しく聴くことができました。「薬育」では、高校生の授業の例ですと前置きをされ、話をされました。内容は薬の効き方から、薬を「ウサギのような薬」「カメのような薬」と分類し、前者は体内への吸収が速く、強い作用が一気に現われ、急速に減弱していくタイプで、後者は飲んだ当初作用は弱いですが、徐々に強くなり、長時間持続するタイプの薬と説明されました。この二つのタイプは、動物に投与する場合、腎臓病、肝臓病、心臓病のとき、薬の飲み合わせがあるとき、年齢・体重などにより、相互に変身する事を理論的に説明され、体の中で一体何が起こっているかを明らかにし、薬の適正使用について考えさせるのにいい例だと思いました。さっそく、「この薬はウサギかカメか」の本を購読いたしました。

第57回全国学校薬剤師大会および全国学校保健研究大会は平成19年11月8日（木）・9日（金）に香川県高松市で開催されます。